

2017年度(平成29年度)
活動報告書



東京女子医科大学

女性医療人キャリア形成センター
女性医師再研修部門

目次

運営委員紹介	p.1
組織図	p.2
活動状況	p.2
女性医師再研修部門の活動概要	p.3
ご相談について	p.3
研修概要	p.4
申請者の状況	p.4
女性医師復職支援の普及	p.6
研修された皆様の感想	p.7
e-ラーニング(教育・学習支援プログラム)	p.9
一般内科プロジェクトシンポジウム	p.12
学術活動、メディア掲載	p.17
東京都「女性活躍推進大賞」受賞	p.18
女性医療人キャリア形成センターのご紹介	p.19

運営委員紹介

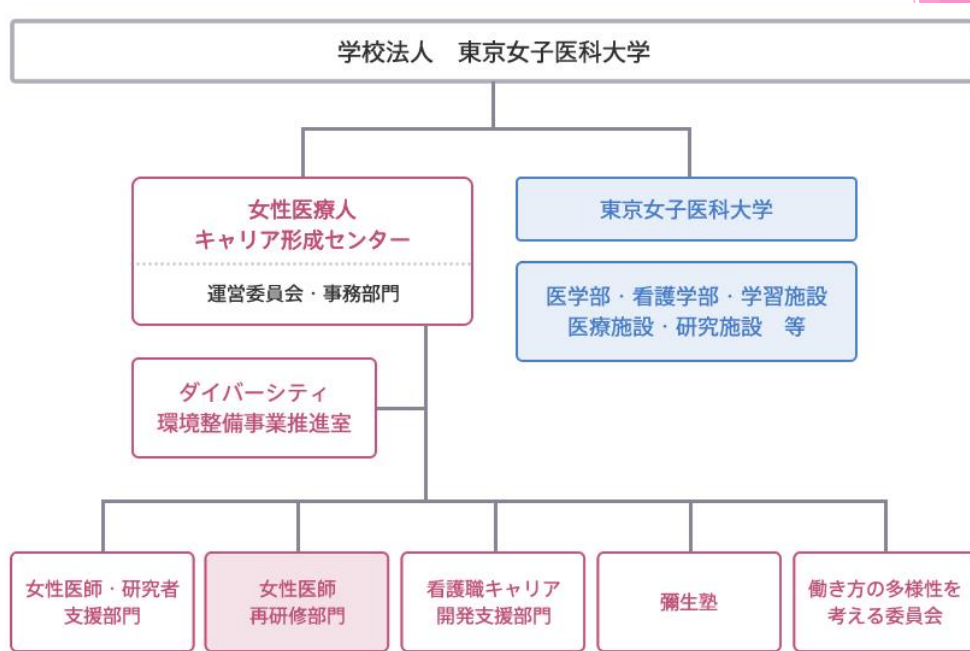
※所属・役職は2018年3月現在(順不同、敬称略)

運営委員	所属	役職	氏名
部門長	放射線腫瘍科	教授・講座主任	唐澤 久美子
副部門長	糖尿病センター	准教授	岩崎 直子
副部門長	東医療センター内科	准教授	小川 哲也
委員	消化器内視鏡科	教授	中村 真一
委員	保健管理センター	教授	内田 啓子
委員	眼科	臨床教授	高村 悦子
委員	医療・病院管理学	准教授	加藤 多津子
委員	小児科	准教授	平澤 恭子
委員	衛生学公衆衛生学(二)	准教授	小島原 典子
委員	東医療センター耳鼻咽喉科	准教授	余田 敬子
委員	総合診療科	准教授	片井 みゆき
委員	八千代医療センター 乳腺・内分泌外科	准教授	地曳 典恵
委員	保健管理センター	講師	横田 仁子

事務局

所属	役職	氏名
女性医療人キャリア形成センター	事務長	吉原 政晴
	事務員	桜井 久美子
	事務員	和田 美周子
	事務員	永山 美穂

組織図



活動状況

日付	内容
2018.3.23	女性医師再研修部門定例会
2018.01.27	一般内科プロジェクトシンポジウム 「地域医療における医師の働き方改革－外来で勝負する女性医師の視点－から」開催
2018.01.11	女性医師再研修部門定例会
2017.12.01	一般内科プロジェクト会議
2017.11.14	女性医師再研修部門定例会
2017.09.01	女性医師再研修部門定例会
2017.07.07	女性医師再研修部門定例会
2017.07.04	女性医師再研修部門運営委員会
2017.05.22	e-ラーニング公開「ウィメンズヘルス研究」

女性医師再研修部門の活動概要

東京女子医科大学は、女性医師が種々の理由で離職された後の復職にあたり、出身大学に関わらず、様々なニーズに答えられるようなオーダーメイドの研修を実施するため、2006年に「女性医師再教育センター」を設立致しました。2017年からは「女性医療人キャリア形成センター」の「女性医師再研修部門」として、復職に向けてのご相談から研修の受付など、女性医師に対して幅広い復職支援を行っております。

女性医師再研修部門では、2006年の設立以来、200件を超える復職やキャリアに関するご相談をいただいております。

2016年には厚生労働省「女性医師キャリア支援モデル普及推進事業」に採択され、本邦唯一の女子医大として培ってきた風土や歴史を土台とし、さらにこれまでのご相談で培ってきた復職やキャリア形成支援のノウハウを報告書にまとめました。

今後も引き続き、女性医師の復職支援だけでなく、支援をする側への情報提供なども行っていきたいと考えております。

ご相談について

復職を考えているけれど
何から始めれば…

働く日数を増やしたい。
でもスキルに自信が…



「相談＝研修」ではなく、相談される方の状況や離職期間、診療経験などを伺いながら、一緒に今後の方向性を検討します。そのため、相談だけで不安や問題が解決される方もいらっしゃいます。

当部門ではメールやヒアリングで詳しく状況をお伺いしながら、一緒に今後の方向性を検討します。

みんなバラバラ！

診療経験
離職期間
心配や不安に思うこと
勉強・研修したいこと
今後の働き方
ご家族の状況
その他要望など

ヒアリング
メール
面談など

臨床の勘や自信を
取り戻すには研修が
効果的みたい。
研修をやってみよう！

実力は十分！
研修しなくても
非常勤などで
働いてみては？

今は研修は
難しくても〇〇から
初めてみては？

「これからの自分」を
「一緒に」育みましょう！



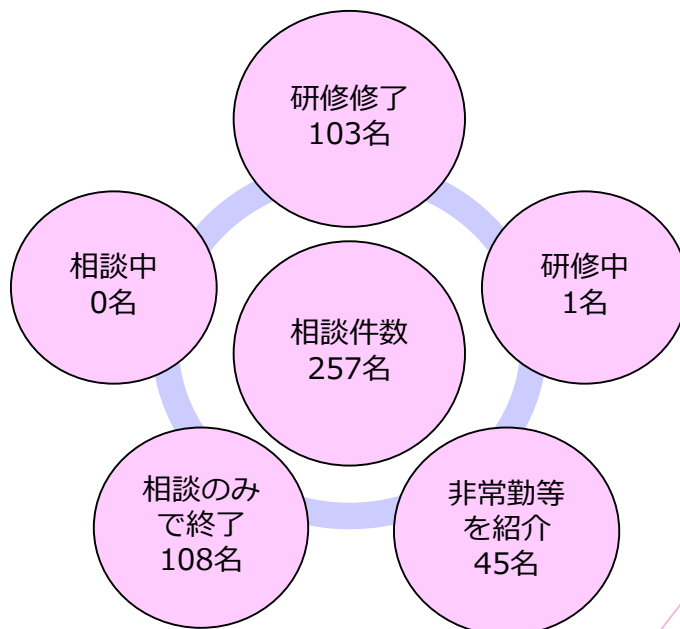
研修概要

項目	内容
研修目的	復職のために臨床の働を取り戻すことが目的です。「知識」と「技能」に関する不安を解消し、復職に向けて第一歩を踏み出すための研修です。
研修内容	到達目標を一緒に検討しながら決定します。
研修期間	原則3ヶ月(無給)
研修日数	週何日、何時から何時などのご要望を伺って一緒に検討します。
登録料	研修が決まった段階で、登録料として5,000円をお振り込みいただきます。

申請者の状況

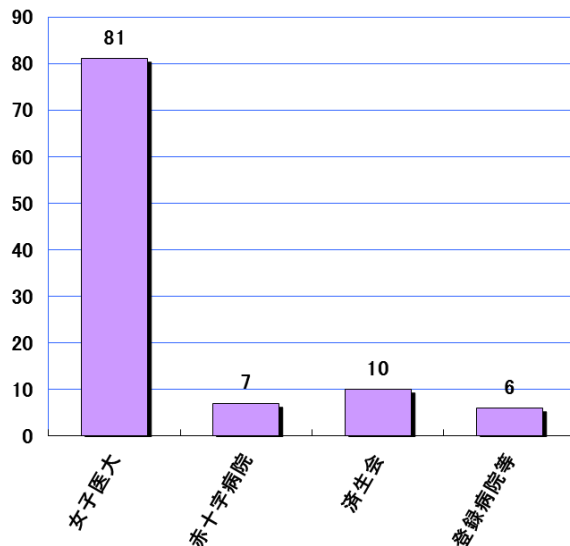
当部門に相談された方(申請者)の状況です。

2006年の設立以来、申請者は257名となりました。内訳は、研修を行っている、または終了された方が104名、研修を行わず様々な働き方などを提案・紹介した方が45名、同じく研修を行わず相談のみで終了された方が108名となります。



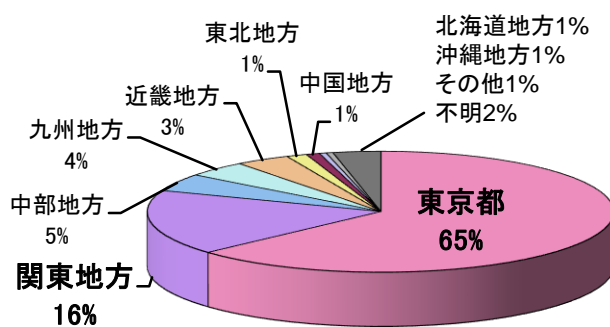
研修先の内訳です。

本学(附属施設含む)での研修が一番多く81件となっています。「女性医師再研修・復職プロジェクト」でご協力くださっている赤十字病院系列で7件、済生会系列で10件、また当部門に研修協力病院としてご登録くださっている病院でも6件の研修が行われています。



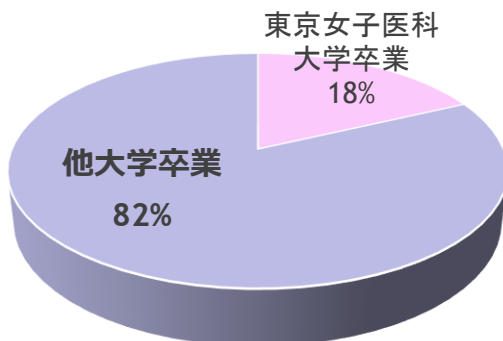
研修先診療科の内訳です。

東京都とその他関東地方が全体の8割を占めています。東京以外にも近畿地方や九州地方など、全国にお住まいの女性医師からご相談が寄せられています。



申請者の卒業大学の内訳です。

本学の卒業生からの相談は18%、残りの82%は他大学を卒業された先生からのご相談です。出身大学や地元から離れてしまい、どこに相談すればわからないという先生方からのご相談が多く寄せられています。



女性医師復職支援の普及

当部門は厚生労働省2016年度「女性医師キャリア支援モデル普及推進事業」に採択され、今までご相談いただいた200件を越える相談対応のノウハウを報告書にまとめました。

相談される皆様の状況は大きく5つのパターンに分かれること、またそのパターンごとの対応についても詳しく掲載しています。

相談される女性医師だけでなく、相談対応を検討している都道府県、市区町村、大学、その他団体等の皆さまにぜひご活用いただけますと幸いです。ホームページからダウンロードが可能です。
(冊子をご希望の方は当部門までご連絡ください)

【ダウンロードページ】

<http://www.twmu.ac.jp/gender/publication/>



⇒「女性医師再研修部門」の「2016年度厚生労働省実施報告書」をクリックしてください。

研修された皆様の感想



申請時は離職中/30代 海外在住で11年ブランクあり
本学 総合診療科にて研修

今回再研修を受けるにあたり、一般内科外来の診療スキルを習得することを目標として考えていました。相談後にヒアリングの面談を行っていただいた際に、担当の先生から「まずは医療の現場に身を置いて雰囲気を感じ、勘を取り戻すことに専念してください」というアドバイスのもと、研修先として総合診療科を提案していただきました。このアドバイスはまさに研修全体の大きな道筋を示してください、研修中に何度も思い返し励まされました。

というのも、10年以上のキャリアブランクによる知識、経験不足を研修中に何度も痛感することになり、その度にこのアドバイスを思い出し、自分が研修を通して向き合うべきことは何かということを実感を受け止められたからだと思います。「臨床の勘」は、患者さん一人ひとりを丁寧に問診、診察し、診断治療に繋がる過程で得られていくもので、まさにこの研修は日々その過程を学んでいける場でした。

研修では指導医の先生と一緒に外来を行い、常に一緒に検討して下さることで一症例ごとに知識を深め、今後の診察にも繋がる応用力までも学ぶことができました。

子供のこともあり週1回という少ない研修でしたが、指導医の先生はじめ研修現場での先生方が本当に丁寧に指導くださり、安心できる環境の中で現場で働く充実感ややりがいを体験し、復帰の入口に立てた実感がありました。

実際、医療現場の変化、特に医療安全、医療倫理、そして地域医療連携に関しては、実例を通して病院の取り組みを知り、体系的に経験を積むことができたのも大学病院ならではの研修成果だと思います。

研修後は非常勤での勤務も決まり、引き続き臨床能力の研鑽を積み、また今後はプライマリケアに関わる医師を目指していきたいと思っています。



申請時は離職中/40代 出産、育児により9年ブランクあり
本学 成人医学センターにて研修
(糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科)

自分の臨床経験医かなりブランクがあったため、初心にかえり内科外来の雰囲気慣れたり、新薬の使い方を学びたいと考えて、外来見学をさせていただきました。

とても緊張した研修初日に、指導いただく先生、そして患者さんのモチベーションの高さにとても刺激を受けたのを覚えています。研修では離職していた間の新薬の使い方を伺うことができ、自ずと前向きに臨床を学び直したいと思えるようになれたことが、何よりも一番の収穫でした。

研修修了後は、私も指導いただいた先生方のような臨床を行えるようになりたいと思い、日々努めています。

今、もしも臨床への復帰に躊躇されている方がいらっしゃったならば、ぜひ相談、研修など一歩前に踏み出されることをお勧めしたいと思います。



申請時は離職中/30代 夫の転勤、出産により6年ブランクあり
本学 消化器内科にて研修

子供の事情、また夫の勤務先の都合のために、自身が医師として研鑽を積むことや勤務をするということ度を度外視して育児家事に専念してきた10数年。子供の成長を感じられるようになり、うれしさや安心のある反面、個人としてこの生活を続けてよいか考えることが多くなりました。

しかし、出身大学や医局とも遠く離れ、再就職するにも経験が浅く自信もない中、以前知り合いから復職する際は女子医大に相談してみてもどうかと言われていたことを思い出し、相談のメールをしました。

相談後は、面談等スムーズに日程を進めていただき、面談ではブランクが長く自信のない私の気持ちや家庭の事情もよく汲んでくださり、その上で無理のない研修内容や日程を決めることができました。

研修は週3日、上部消化管内視鏡検査に携わりました。最初は見学、シミュレーターでの自修を経て、上級医の先生についていただいたの検査から、研修一月ではひとりで実施できるようになりました。内視鏡検査の手技だけでなく、所見の記載内容なども丁寧に指導いただきました。

検査の奥深さに触れて経験の浅さに愕然とすることもありましたが、さらに学びたいという欲求も出て、勉強会や学会にも参加する機会も得ました。

最終的には消化器内科への時短勤務もできるよう勧めてください、今後も引き続き頑張っていきたいと思います。

e-ラーニング(教育・学習支援プログラム)

～復職や生涯学習のために～

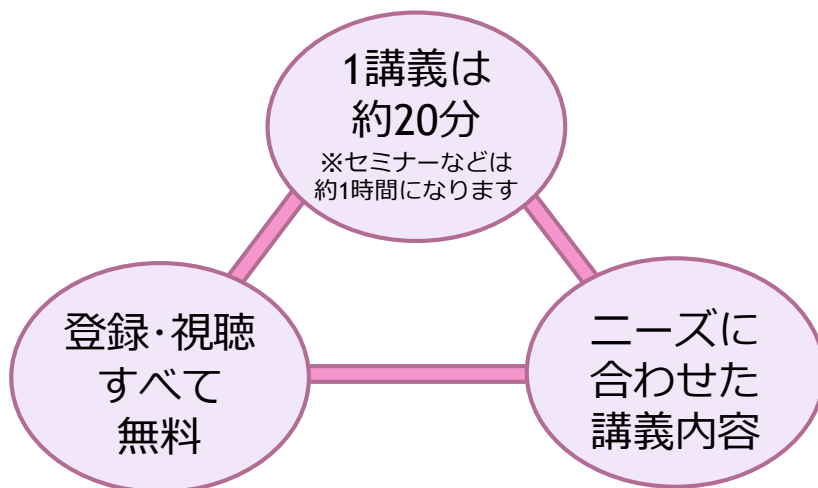
女性医療人キャリア形成センターでは、医師や医療従事者を対象としたe-ラーニングを公開しており、2018年3月末現在で約5,200名の方にご登録いただいております。

結婚、出産、育児、介護など様々なライフイベントが原因で臨床を離れた女性医師の復職支援、また、現役の女性医師の離職防止を目的としておりますが、医療従事者であれば男女を問わずにご視聴いただけるため、生涯学習の一助としてもご利用いただけます。

2018年3月現在、4つのカテゴリで124本のコンテンツを公開しております。ホームページより、新規登録(無料)が行えます。

女性医療人キャリア形成センターホームページ

<http://www.twmu.ac.jp/gender/e-learning/index/>



キャリアに関する講義

女性医師の多様な働き方の提案、先輩医師からのアドバイスなど。

臨床に必要な基本的講義

診療科を問わず、最低限知っておきたい基本的な情報。

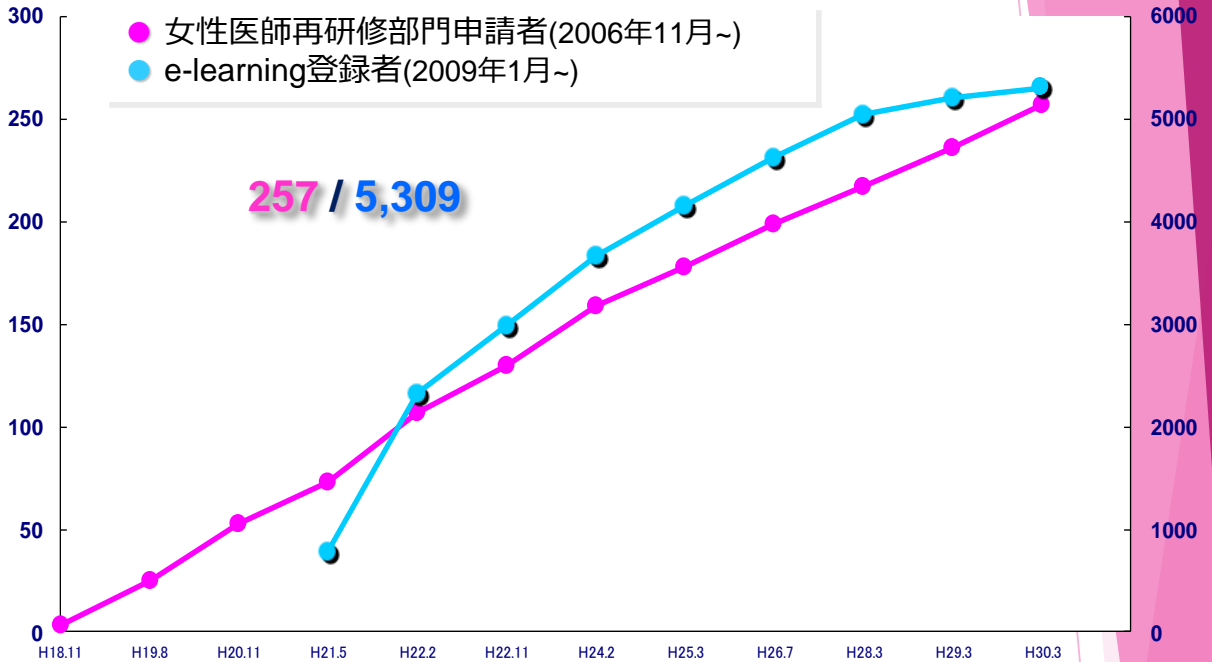
臨床に必要な実践的講義

疾患・治療・ガイドライン情報など、実践的な情報。

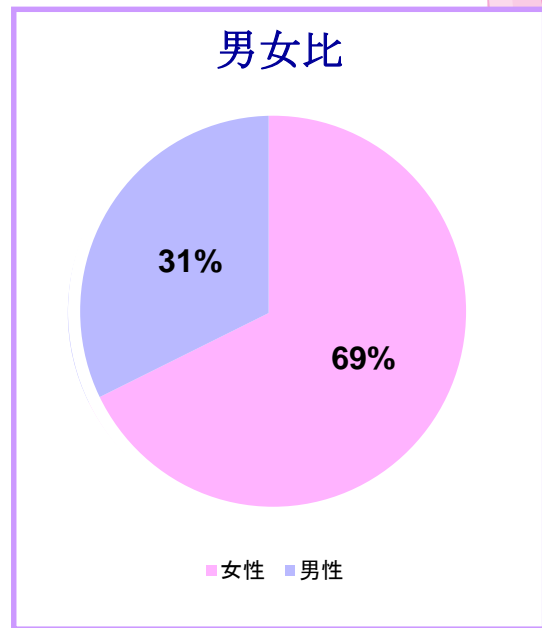
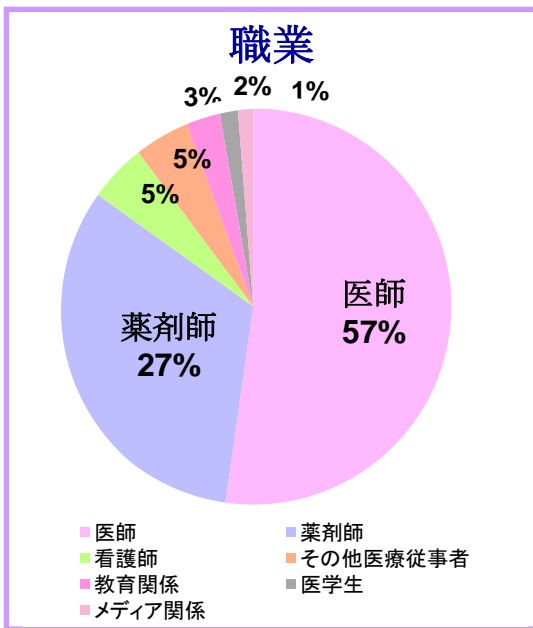
がんプロフェッショナル 養成基盤推進プラン

がんに関する様々な情報。

登録者の推移

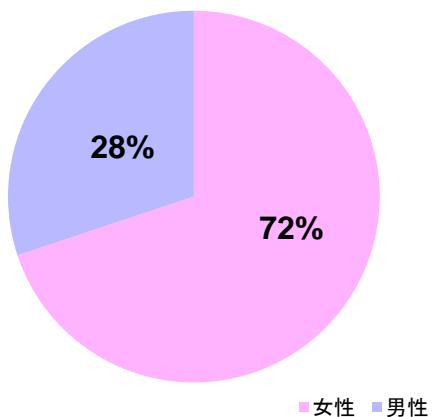


e-ラーニング登録状況 ※全体



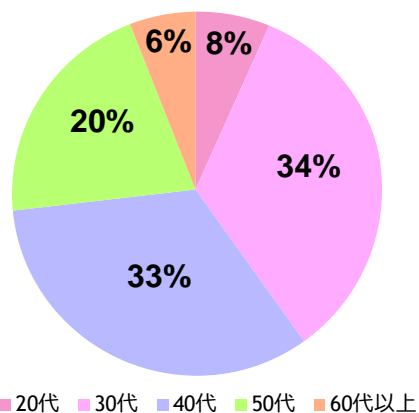
e-ラーニング登録状況 ※医師のみ

男女比



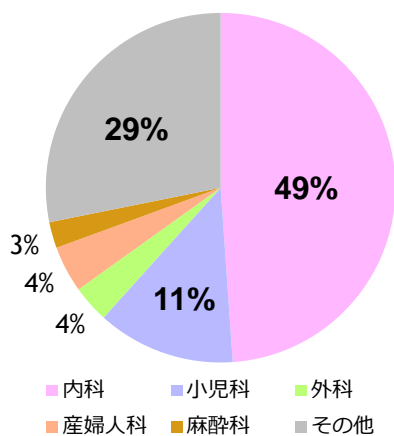
n=2,997

年齢層



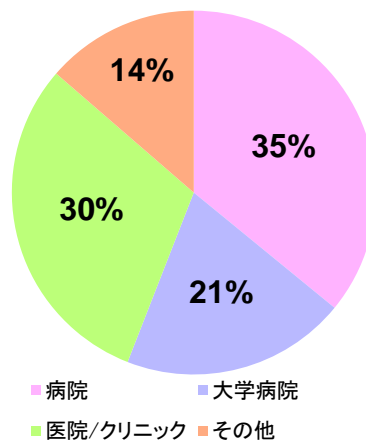
n=2,997

診療科



n=2,997

勤務先



n=2,997

一般内科プロジェクトシンポジウム

「地域医療における医師の働き方改革」

～外来で勝負する女性医師の視点から～

2018年1月27日(土)にシンポジウムを開催致しました。

シンポジウムメッセージ

女性医師復職支援を開始して10年、復職先に地域医療での一般内科外来への復職を希望する方へ、多施設共同研究のエビデンスから最初の一歩として頻度の高い愁訴から呼吸器、循環器、消化器、感染症のコモンディーズを学ぶことから始めてみませんか？今回のシンポジウムではエビデンスからの自分なりの研修プランの立て方、指導の仕方、働き方を考える事に焦点をあてて討論します。



女性医師再研修部門
一般内科プロジェクトチーフ
本学保健管理センター 学生健康管理室 講師 横田 仁子



東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門主催

一般内科プロジェクトシンポジウム

地域医療における医師の働き方改革

～外来で勝負する女性医師の視点から～

日 時：2018年1月27日(土) 13：30～16：00
場 所：東京女子医科大学 総合外来センター5階 大会議室
参加費：無料。託児ご希望の方はご連絡ください。(無料/先着順)
対 象：性別、職種を問わず、どなたでもご参加いただけます。

プログラム

- 13：00(受付開始)
- 13：30-13：35 【開会挨拶】女性医師再研修部門長
放射線腫瘍学 教授・講座主任 唐澤 久美子 先生
- 13：35-13：50 【医師の働き方改革と一般内科】
(社)日本慢性疾患重症化予防学会 理事 松本 洋 氏
- 13：50-14：20 【一般内科プロジェクトの紹介】
日本体育大学保健医療学部 教授 川上順子 先生
医療生協さいたま・さいわい診療所 所長 関口 由希公 先生
東京医療保健大学 医療保健学部 医療情報学科
准教授 瀬戸 僚馬 先生
- 14：20-14：30 【休憩】
- 14：30-15：55 【シンポジウム】内科外来は面白い！
座長：東京女子医科大学東医療センター内科 准教授 小川 哲也 先生
- ★ シンポジスト ★
大月市立中央病院 臨床研修センター長 野村 馨 先生
埼玉協同病院 総合内科病棟医長 山田 歩美 先生
コンフォガーデンクリニック 河合 由紀 先生
高知大学医学部家庭医療学講座 特任准教授 西村 真紀 先生
総合診療医・感染症医/北海道薬科大学客員教授 岸田 直樹 先生
- ★ 総合討論&座長総括 ★
- 15：55-16：00 【閉会挨拶】女性医師再研修部門 一般内科プロジェクトチーフ
本学保健管理センター 講師 横田 仁子 先生
- 16：00-17：00 【懇親会】



※お申し込み方法などは、裏面をご覧ください。

シンポジウムアンケート

来場者:20名

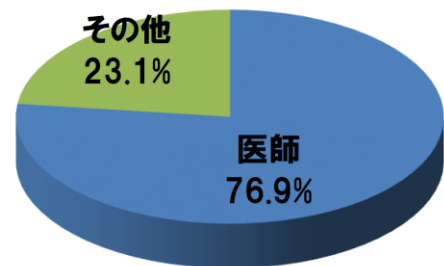
回答者:13名

回収率:65%

①ご職業をお選びください。 n=13

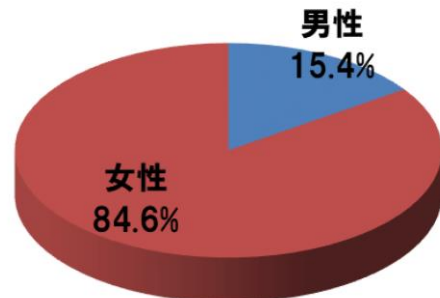
1.医師	10名
2.医学生	0名
3.その他	3名

※その他:会社員、企業など



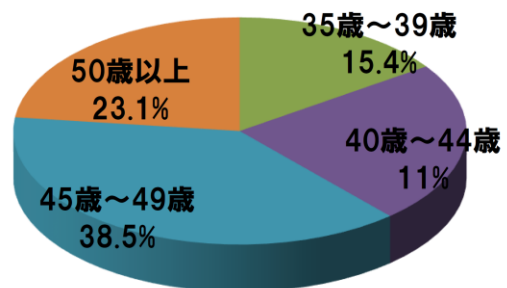
②性別をお選びください。 n=13

1.男性	2名
2.女性	11名



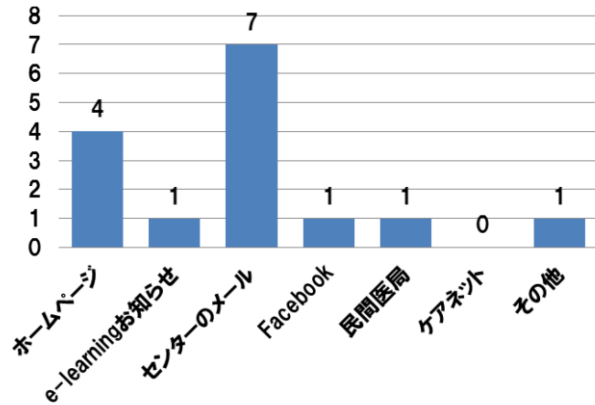
③年齢をお選びください。 n=13

1.~29歳	0名
2.30歳~34歳	0名
3.35歳~39歳	2名
4.40歳~44歳	3名
5.45歳~49歳	5名
6.50歳~	3名



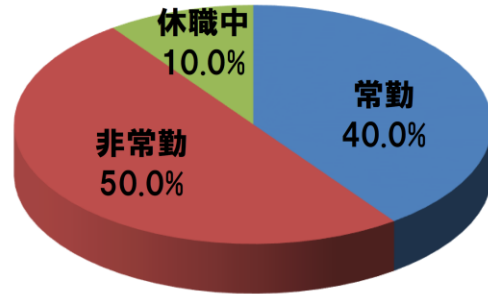
④ 今回の開催を何でお知りになりましたか？ n=13(複数回答)

1.ホームページ	4名
2.e-ラーニングのお知らせ	1名
3.センターからのメール	7名
4.Facebook	1名
5.民間医局	1名
6.ケアネット	0名
7.その他(チラシ)	1名



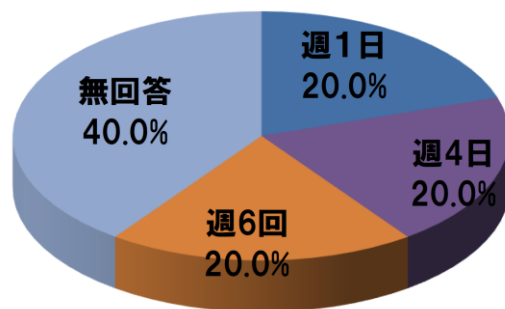
⑤「①」で「医師」を選ばれた方は、現在の状況を教えてください。 n=10

1.常勤で勤務	4名
2.非常勤で勤務	5名
3.休職(離職)中で復職を目指している	1名



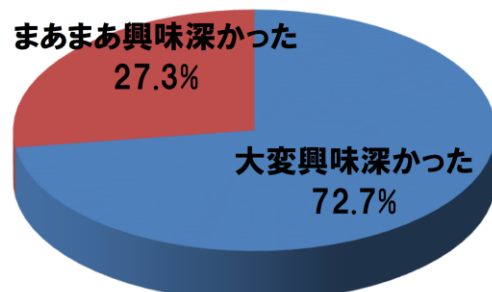
【「非常勤で勤務」の内訳】

1.週1日	1名
2.週4日	1名
3.週6日	1名
4.無回答	2名



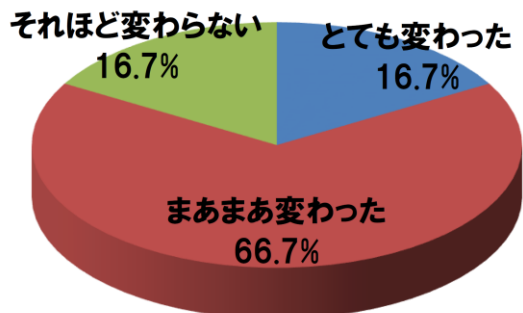
⑥ 内容はいかがでしたか？ n=11(未記入:2名)

1.大変興味深かった	8名
2.まあまあ興味深かった	3名



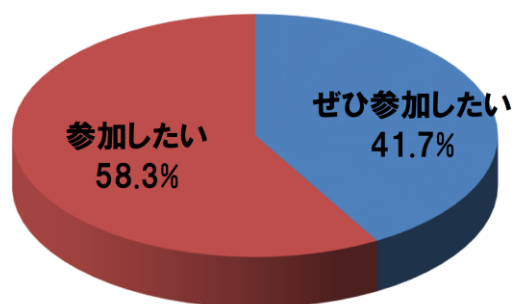
⑦一般内科外来について、今回参加したことにより概念は変わりましたか？ n=12 (未記入:1名)

- 1.とても変わった 2名
- 2.まあまあ変わった 8名
- 3.それほど変わらない 2名



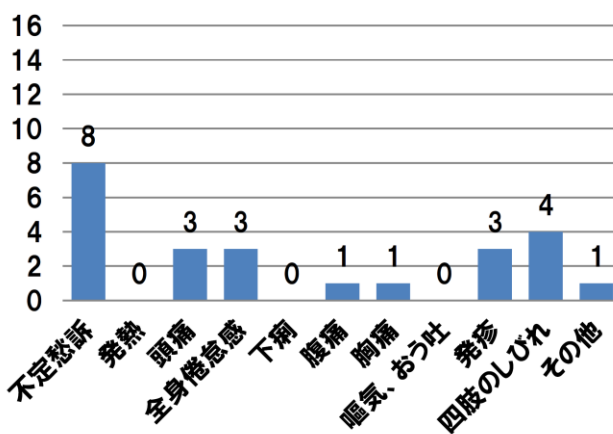
⑧今後もこのような一般内科に関するスキルアップの講座があれば参加したいですか？ n=12 (未記入:1名)

- 1.ぜひ参加したい 5名
- 2.参加したい 7名



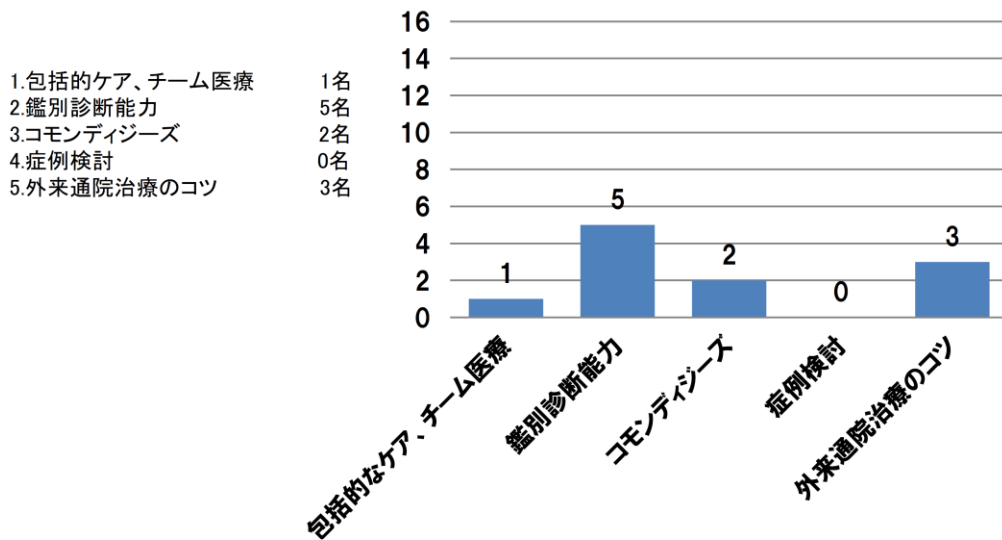
⑨今後学びたい症例の主訴はどれですか？ n=11 (未記入:2名) ※複数回答可、3つまで

- 1.不定愁訴 8名
- 2.発熱 0名
- 3.頭痛 3名
- 4.全身倦怠感 3名
- 5.下痢 0名
- 6.腹痛 1名
- 7.胸痛 1名
- 8.嘔気、おう吐 0名
- 9.発疹 3名
- 10.四肢のしびれ 4名
- 11.その他 1名



※その他(内容の記入なし)

⑩今後、自分のスキルアップのために学びたいことは何ですか？ n=10 (未記入:3名) ※最優先1つ選択



⑪今回のシンポジウムでよかった点は何ですか？ ※自由記載

- ・一般内科のデータ分析。(30歳代男性/医師)
- ・仲間で振り返りの場があることを知ることができた。(30歳代男性/医師)
- ・地域のニーズに合わせることが重要。(30歳代男性/医師)
- ・もう少し頑張ってみようと思えるようになりました。(40歳代女性/医師)
- ・女性医師の復職の難しさを知った。復職支援をされている方々のお考えが素晴らしかった。
(30歳代男性/会社員)
- ・大変参考になりました。(40歳代男性/医療機関及び医師へのコンサル)
- ・多様な働き方があることを知りました。(40歳代女性/医師)
- ・家庭医、在宅医療についても視野に入れて今後も勉強していきたいと思えます。
(50歳代以上女性/医師)

⑫今回のシンポジウムで悪かった点は何ですか？ ※自由記載

- ・単科の臨床だけやっていると視野が狭くなるので、このような機会があると自分自身が改まります。(50歳代以上女性/医師)
- ・要望としては、関西にもこのような機会が広がれば有難いです。(40歳代女性/医師)
- ・医療機関の経営支援及び医師のキャリア支援を行っており、その一環で女性医師の活躍の場を作ること、女性患者のニーズに応えることを目的に女性医師による医療モジュールを検討しています。ご一緒に何かできないか改めて相談いたします。
(40歳代男性/医療機関及び医師へのコンサル)

学術活動

【学会発表】

- ・第49回日本医学教育学会大会にて「女性医師のキャリア再開に関する検討 女性医師再教育部門登録事例の解析(2)」(2017年8月)
- ・第8回国際性差医学学会学術集会(2017年9月)
Jinko Yokota: Multicenter Clinical Studies about Complaints of Patients at the Ambulatory Ward of Internal Medicine –Considerations about Gender Differences in Medicine- The 8th Congress of the International Society for Gender Medicine, Sendai, 2017.9
- ・第357回東京女子医科大学学会例会「一般内科初診外来における愁訴と傷病名に関する多施設共同研究」(2018年2月)

【著書】

- ・横田仁子：女性医師再教育センターにおける女性医師復職支援活動. 大学評価研究,16 pp75-80 2017
- ・横田仁子：オーダーメイドの女性医師再研修・復職支援プロジェクト. 大学時報, 66(374) pp50-54. 2017

メディア掲載

日本経済新聞 2018年(平成30年)1月29日(月曜日)

女性医師 働き続けやすく

遅れていた女性医師のキャリアと出産・育児との両立を後押しする動きが広がっている。20代では医師の3割超が女性になった。日本の医療を支えるために女性の活躍は不可欠で、復職支援や働き続けやすい環境づくりを進める。

「この1、2年で症状が変わった」とほろほろと。東京女子医科大学病院(東京・新宿)の総合診療科で1月上旬、山口あけみ医師(40)が精密検査に訪れた男性を診察していた。山口さんは2017年秋、約10年間の専業主婦生活から、非常勤医師として医療現場に復帰した。同大学卒業後、付属の医療機関に勤めていたが、4年目に夫の仕事の都合で米国に引越すため退職した。現在41歳の山口さんは2女を育てている。17年1月の帰国を機に、医師の仕事を通じて社会に役割を持ちたいと復職を願ったものの、長く現場を離れなかった。「仕事を忘れてしまったら」。後押ししたのが同大の女性医師再研修部門が提供する「再研修・復職プロジェクト」だった。原則3カ月で希望者の要望に沿った頻度内容の研修をする。制度は06年度に始まり、結婚や育児などで医療現場から離れた女性医師が対象だ。卒業後は問

わない。17年1月までに233人が相談し、96人が研修を受け、75人が復職した。相談者のうち75%が復職した。山口さんは子育てとの両立を考慮し、総合診療科で研修した。指導医にアドバイスをもらいながら実際に診察をして「自分にもでき役がある」と前向きになれたという。再研修部門の信久美子部門長は「キャリアが多様化し、三職する医師も増えた。復職したいときに相談できる人がいないことが課題。人材という至る厚労省にも医療機関で働く16年末の女性医師数は6万4305人で全体の21%。ただ男女比は年齢層が若いほど女性の割合が高く、20歳以下35%、30代は31%を占める。20年前と比べると2割以上も、全世代でみても8割高くなった。日本医師会の今村定臣常任理

事は「女性には妊娠・出産など男性と異なるライフステージがあるが、女性に動いてもらうためには医療現場は立ちゆかなくなる」と指摘。医師会は厚労省からの託を受け、就業希望者に医療機関を無料で紹介する「女性医師バンク」をつくった。一方、08年から子育てや介護中の医師らに基本3年間の「キャリア支援制度」を提供する。岡山大学病院(岡山市)。それまでの定員と別に応募医師を配置する。勤務時間や頻度が比較的目由になる。制度利用後は大学病院で常勤復帰したり、地域の病院に就職したり。希望者が増え、来年度からは受け入れ可能時間を増やす予定だ。働き方改革も進む。久留米大学病院(福岡県久留米市)は18年度、小児科のワークライフバランスを進める取り組みを、他科に紹介し広げる意向だ。ママさん医師が活躍中の小児科は18年末から土日もしっかり休めるよう体制を整備。休日にも主治医が担当患者の見回りや

「この1、2年で症状が変わった」とほろほろと。東京女子医科大学病院(東京・新宿)の総合診療科で1月上旬、山口あけみ医師(40)が精密検査に訪れた男性を診察していた。山口さんは2017年秋、約10年間の専業主婦生活から、非常勤医師として医療現場に復帰した。同大学卒業後、付属の医療機関に勤めていたが、4年目に夫の仕事の都合で米国に引越すため退職した。現在41歳の山口さんは2女を育てている。17年1月の帰国を機に、医師の仕事を通じて社会に役割を持ちたいと復職を願ったものの、長く現場を離れなかった。「仕事を忘れてしまったら」。後押ししたのが同大の女性医師再研修部門が提供する「再研修・復職プロジェクト」だった。原則3カ月で希望者の要望に沿った頻度内容の研修をする。制度は06年度に始まり、結婚や育児などで医療現場から離れた女性医師が対象だ。卒業後は問

わない。17年1月までに233人が相談し、96人が研修を受け、75人が復職した。相談者のうち75%が復職した。山口さんは子育てとの両立を考慮し、総合診療科で研修した。指導医にアドバイスをもらいながら実際に診察をして「自分にもでき役がある」と前向きになれたという。再研修部門の信久美子部門長は「キャリアが多様化し、三職する医師も増えた。復職したいときに相談できる人がいないことが課題。人材という至る厚労省にも医療機関で働く16年末の女性医師数は6万4305人で全体の21%。ただ男女比は年齢層が若いほど女性の割合が高く、20歳以下35%、30代は31%を占める。20年前と比べると2割以上も、全世代でみても8割高くなった。日本医師会の今村定臣常任理

育児での離職者再研修

指導医(奥)のアドバイスを受けながら診察する、復職した東京女子医科大学病院長の山口あけみ医師(東京都新宿区)

年	女性医師数 (万人)	割合 (%)
1994	~1.5	~10
98	~2.5	~15
2002	~3.5	~18
06	~4.5	~20
10	~5.5	~22
14	~6.5	~23
16	~7.5	~24

東京都「女性活躍推進大賞」受賞

2017年12月22日、本学は「東京都女性活躍推進大賞(教育分野)」を受賞いたしました。

女性活躍推進大賞は全ての女性が意欲と能力に応じて多様な生き方が選択できる社会の実現に向け、女性の活躍推進の気運を醸成するために東京都が創設したものです。

第4回目となる今年度は、産業分野、医療・福祉分野、教育分野、地域分野での募集がなされ、本学は教育分野で、大賞を受賞しました。

女性医療人キャリア形成センターが推進している①キャリア形成・ライフイベントとの両立支援、②上位職への積極登用、③全国の女性医療人を対象とした再研修制度が評価されたものです。

教育分野



学校法人東京女子医科大学

平成29年度 東京都女性活躍推進大賞

東京都
女性活躍推進大賞
を受賞して

女性医師・研究者のキャリア形成を継続できる環境を整備、
全国の女性医療人を対象にした復職支援

取組内容

【キャリア形成・ライフイベントとの両立支援】

- 短時間勤務制度を整備し、女性医師・研究者のキャリア形成を支援
- 地域の人々から子育ての支援を受ける「ファミリーサポート」事業を全国の大学に先駆けて運営
院内保育所と連携して保育支援体制の充実を図る

【上位職への積極登用等】

- 公募による教授選考の際、候補者が同等の場合、女性を積極的に登用(プラスファクター方式を導入)
- 女性の活躍に寄与する分野について特命担当教授・准教授を新設
- 女性医療人としてのリーダーの育成を進めるため、奨生塾を創設

【両立支援制度】

- 出身大学を問わずに全国の女性医師等を対象に、復職に向けたオーダーメイド研修や約150講座の無料e-ラーニングを整備



効果

- ファミリーサポートは、仕事と子育て等との両立支援に加え、サポーター(提供会員)に対して講習会を開催することで地域全体の育児能力の向上にもつながる
(平成28年度: 提供会員172名、研修会員229名、年間延べ活動件数3,568件、講習会等の開催: 4回)
※平成27年から(女子医大・東京医大ファミリーサポート)として事業継続
- 女性採用(昇格を含む)(平成28年度: 教授4名、准教授6名、講師12名)
- 再研修制度により、全国の女性医師に対して復職を支援
(復職への支援申請者総数: 約248名、e-ラーニング: 登録者数5,273名)
※復職への支援申請者のうち約8割が外部利用

○教育分野での大賞を受賞し、光栄であり、また名譽なことに感謝しております。

○本学は1990年(明治33年、当第29歳の)女性医師吉岡彌生が創立した本邦で唯一の女子医科大学です。今回の受賞は、社会に貢献する女性を輩出するという本学の歴史も含めて評価されたものと考えます。

○建学の精神と理念を現代のコンテクストで実現していくことが、今後も我々の使命と感じております。



理事 学長
吉岡 俊正

今後の展開

○ライフイベントにより研究継続・研究時間確保が難しくなった女性研究者だけでなく、十分な実績がある将来有望な若手女性研究者に対しても研究支援員を配置し、女性研究者の更なる研究力向上を目指します。

○女性による女性のための女性の健康を守る診療を実施する「女性科」を新たに創設します。

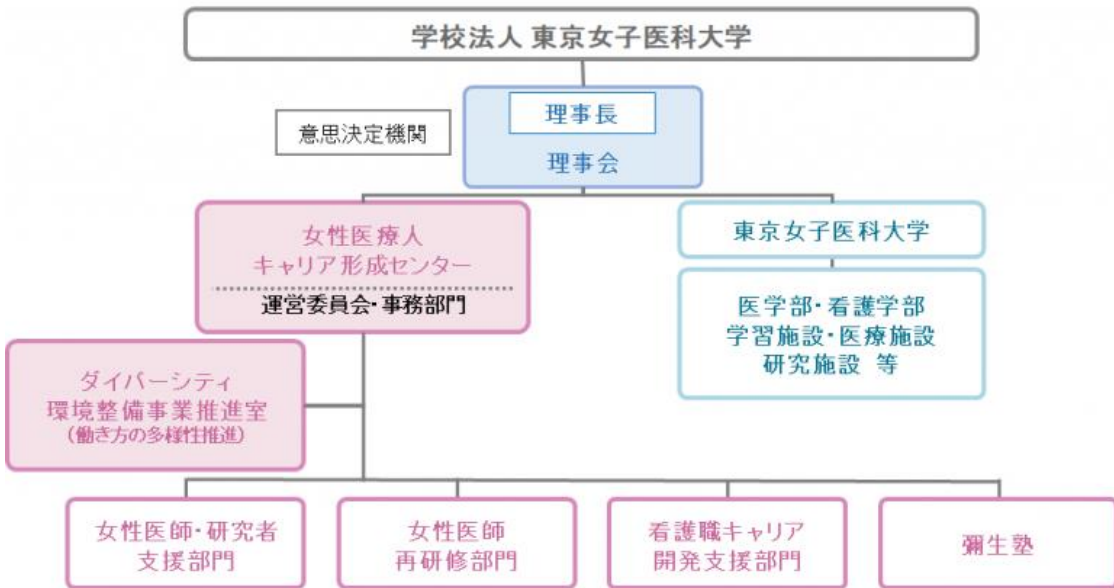
○優秀な女性医師の上位職登用を更に加速させることで2020年教授職女性比率30%を目指します。

贈呈式では、小池百合子東京都知事より吉岡俊正理事長・学長が賞状と記念の盾を受け取りました。



女性医療人キャリア形成センターのご紹介

女性医療人キャリア形成センターは、女性医師や研究者の勤務継続支援等を行う「女性医師・研究者支援部門」、女性医師の復職支援を行う「女性医師再研修部門」、看護職のスキルアップやキャリア形成支援を行う「看護職キャリア開発支援部門」、社会のリーダーとなる女性医療人を輩出するための「彌生塾」、またこれらの部門や彌生塾と有機的に連携し、多面的な活動を推進する「ダイバーシティ環境整備事業推進室」で成り立っています。



活動の詳細につきましては、ホームページをご覧くださいませと幸いです。
ホームページより、当活動報告書のダウンロードも可能です。

「女性医療人キャリア形成センター」で検索！
または下記QRコードからホームページへ！



発行 2018年（平成30年）8月
発行者 東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター 女性医師再研修部門
〒162-8666
東京都新宿区河田町8番1号
電話：03-3353-8112（内線）41382
e-mail：cdc.bm@twmu.ac.jp
URL：<http://www.twmu.ac.jp/CECWD/>

